

夢会議（12月15日）における主な意見等について

1 グループの活動発表に対する意見等の集約（横山専門委員、小橋専門委員）

(1) 青少年健全育成グループ

家庭の取組も重要なので、家庭でどのように対応していけばいいのかということ啓発してほしい、といった意見があった。

(2) グループたんばなう

「もっと魅力を見つけて」という期待感のある意見や「発見した資源をマニュアル化したり、どこでどういったものが丹波地域に眠っているのかを分かるようにまとめてくれないか」という意見があった。

また、質問としては、「丹波地域が自立するというのはどういうイメージか」、「活動するためには自立という考え方は不可欠だが、その中身が知りたい」、「発見した材料に対して将来誰が取組等を担っていくのか」といったものがあった。

(3) 里山のお宝探検隊グループ

頑張れという意見のほか、「里山の活動をしているグループがたくさんあるので連携してほしい」、「地域とともに考える機会があればいい」という意見があった。これは、グループの目標としていることなので、今は仕込みの時期であるが、まずは金山からということである。4月に企画を予定している。4月の企画は丹波市と篠山市の境界であるが、もうひとつは国領の峠の活動とも連携しようという取組もある。

そのほか、「最終目標はどのようなものか」という質問、「内容はよく分かったので、私の地域にも来てほしい」、「青垣町の東芦田地区でも里山の活動をしているので、ぜひうちの活動も見に来てほしい」という意見があった。

(4) グループさるが出た!!

「さるが出た!!」というネーミングはインパクトがあるが、この名前がいいものか」という意見をはじめ、「鳥獣害の被害などにも取り組んでくれないか」、「水害などの啓発もやってもらえるとありがたい」、「専門用語を使わずにやっているのが良く、実験も分かりやすかった」、「活動をもっとPRするべきだ」という意見があった。

実演があったトラッキング現象については、「知らなかった。勉強になった」という意見があった。

(5) 都市との交流グループ

「第5期からの引き継ぎが非常によくできているのがすごい」という意見があった。

また、提案として、「移住者の意見をよく聞いていると思うので、それをみんなで共有したい」、「移住者向けの体験住宅について、家族だけが来るのではなく世代の繋がりが作れるようなもの、例えば、地元の高齢者とのシェアなどができないか」というものがあった。

そのほか、「田舎暮らし体験の取組をしていきたいが、実際のノウハウを教えてほしい」、「地元の人を巻き込むのは大変だと思うがどうすればいいのか」といった質問があった。

(6) 遊楽農グループ

「地元の農家グループとの連携を進めてはどうか」という意見や、「有機栽培のノウハウを貯めてもらい、共有できるようにしてほしい」との提案があった。

また、「丹波の里塾のコスト面や実施の継続に向けた課題はどうか」、「有機農業は手がかかるので、農業としてやっていけるか」という質問があった。

(7) 高齢者の生きがいづくりグループ

提案として、「接骨院や病院と提携して、プログラムに取り入れてもらったらどうか」、「公

民館行事に取り入れてもらえるよう働きかけてはどうか」というものがあった。

また、運営面に対して、「グループのメンバーだけでは大変なので、支部のようなものを拡げていき、各地でウォーキングができるように工夫したらどうか」、「活動そのものが健康づくりになっているので、活動をしたいという仲間を増やしてみてもは」という提案があった。

(8) 男女共同参画グループ

「紙芝居は男女共同参画の分野以外でも使えるのではないか。紙芝居化によるメッセージの伝達という手法を、他のグループでも使えるような形で共有していけばいいのでは」といった共感の声が多かった。また、「いい活動なので、広報面（チラシやホームページ、自治会への案内）をしっかりと、各地域でできるように工夫してほしい」という意見があった。

2 質問等に対するグループの回答

○グループたんばなう（横田リーダー）

コミュニティビジネスをやるのが自立であると考えているわけではないが、自立につながるとは思っている。コミュニティビジネスは難しそうだから進んでやるという人はあまりいないと思うが、実際やってみるとそれほど難しくない。「コミュニティビジネスはこんなことからできるのか」と思っていたので、我々は様々な活動をしており、それが自立のための第一歩になると考えている。また、当事者意識を持つこと、自信をつけることが大切だと思う。「世界のモデルになる」とさきほど仰々しく説明したかもしれないが、それを目指していくことによって、自信になっていくと思う。

「誰が引き継ぐのか」という質問であるが、当事者意識を持つことが大事。それは主役になるということ。そのためには、リーダーになる、あるいは役割を担うことが必要だと思うが、まずは垣根の低いところから参加してもらいたい。体験からでないと思わないので、体験から入っていただきたい。

○横山専門委員

コミュニティビジネスは生計を立てるということではない。月々1～2万円の小遣い稼ぎといった性格のものであり、定年退職してからが有効なものだと思う。地域に関わりを持ちながら、週1回2時間程度、地域の資源をどのように活用していくかということだと思う。

○里山のお宝探検隊グループ（橋元リーダー）

グループの最終目標は、豊かな自然の里山が正しく理解されたうえで、都会の人と有意義な交流をするというものだと思う。豊かな自然という言葉に簡単に流されてしまうが、自然との共生が前提。山の麓に設置されている野生動物の対策フェンスの近くを歩いた方は少ないと思うが、木の下はシカが草を食べているので何も生えていない。そういった状況は、生物多様性からいうとかなり危険な状態。その問題を理解していただき、豊かな自然と一言で言わないで正しく理解してほしい。そして、丹波地域の自然環境の現状を都会の人にも理解してほしいと思っている。

○都市との交流グループ（瓢サブリーダー）

「田舎暮らしの相談先」、「Iターン者と地元の交流会の場」、「Iターン者の意見」の三点に集約して回答する。

相談窓口については、ワンストップ相談の窓口が丹波の森公苑にあるほか、篠山は市民センターの中にノートが作っている窓口がある。

交流の機会については、5期では3回実施し、6期でもやろうとしている。5期で実施した3回のうち2回は、大きな集まりで行い、1回は旧町単位で行った。今後も丹波地域の旧10町を単位として交流会をしたいと考えている。

Iターン者の意見については、移住者名簿をつくる過程で様々なものを聞くことができた。「都会でたくさん仕事をしてきたからゆっくりしたい。放っておいてほしい」という意見をはじめ、農業、創作活動、お店をしたい人等々多様な考え方があった。全体としては、大きな家、きれいな空気、静かなところに住みたいという意見や、自由に豊かに生きたいという意見が多かったと思う。一方、マイナスの意見は、自治会に入らないといけない、日役などの共同作業が必要ということを知らなかったというもの。現実を知ったうえで来てもらおうと、このような意見は出てこない。また、Iターン者は、自然、おいしいもの、優しい人がたくさん、受け継がれた歴史がある、ということを求めて来ているが、地元の方はそれを宝物だと思っていない。この意識ギャップが一番大きいと思うので、Iターン者が持っているパワーや新たな発想を活用した地域づくりが行えることを期待している。

○遊楽農グループ（小橋リーダー）

「丹波の里塾」の経費面での継続については、栽培したものを売ったり、塾生から受講料をもらえば今後も継続は可能だと思う。

また、有機栽培の業については、可能である。例えば、「実践活動の状況」P4の写真を見てもらうと、畑の谷には草がたくさん生えているが、畝の上には生えていない。これは、6月末頃に畝の上に透明のビニールを貼り、太陽熱で消毒をするという方法である。この方法により、栽培中は草は生えないし、病害虫も太陽熱で死ぬ。従って、病害虫にもかからないし、草引きの必要もない。こういったことを活用すれば、ある程度大きな規模でも有機農業は可能だし、自分もやっている。

そのほか、丹波農業グランプリの参画と資料に記載しているが、来年の2月に農業グランプリを実施する。丹波で農業を頑張っている人の事例を紹介するので、ぜひ見てほしい。

○横山専門委員

6期は今年の4月から始まっており、来年度から本格的に活動を展開する。関心のある方は現場に見に行かれたらよく分かると思う。

3 その他意見

○石田氏（丹波市柏原町挙田）

こういう会議は初めてなので、期待して来た。どのような団体がどのような活動をしているか、どのような団体が加入しているかということで聞かせてもらったが、残念ながら、人数やグループが少ないし、加入団体も非常に少ない。横の連携が取れていないのではと思う。

なぜかと言えば、自治振興会や自治会、農業団体、婦人会等々、丹波には団体がたくさんあり、その中でそれぞれが丹波市を良くするために活動しているが、丹波市の基本的な問題は、6町が合併したものの負の遺産が残っている。青垣、市島、山南は過疎が進み、合併してより過疎が進んでいる。商店街は全然人が通らず、店はみな閉まっている。丹波市は、こういう機会があるのだから、集まって丹波市はどうするのかと議論すればいい。

今、一番問題になっているのは医療の問題。柏原病院や日赤をどうするのか。大きな負債を抱え、丹波の医療をどうするのか。2つの病院を合併して継続しようという動きがあったけれども、継続も大学の医学部次第であり、医師が来るか来ないかわからない。市長もその確約はできないだろう。一度丹波の負を精算しよう、そして多くの人に参加して本当の丹波のあり方を検討してほしい。

また、県民局も丹波から撤退するようなことを言っているが、こんな状態で丹波市をどうするのか、このことをビジョン委員会は徹底的に協議しないと私はいけないと思う。

それから我々高齢者の意見。我々は本当に丹波市で死ぬのか。私はどこで死ぬだろう。

西脇か、三田か、福知山か。死ぬところさえない。丹波市は実際問題死ぬところがない。みなさんは、10年、15年先どこで死ぬのか？そのようなことをビジョン委員会は考えて丹波の将来像を作ってほしい。

○ふるさと和田振興会 武田氏

ここに参加して非常に嬉しいことがたくさんあった。自治会の役員をしているが、お金を使わなくても、たくさん活動をされている。男女共同参画の紙芝居も無料で来ていただける。自治会は高齢化でお金がない。面白い活動なので、来年の公民館活動の中に入れていたいと思う。また、丹波市には夢があると思う。人口は減っているが、楽しいことがたくさんあると考えているが、一方で石田さんが言われたことも大事だと思う。我々ボランティアでやらないといけないことはたくさんあると思うので、ご協力いただきたい。

○横山専門委員

ビジョンの活動はぜひ有効に活用してほしい。紙芝居グループなども継続のために交通費はいただくことになっている。ビジョン委員会の説明が不足しているところもあったかもしれないが、自分たちでできることを活動するという趣旨で動いている。問題点もいろいろあると思うが、自分たちで何ができるかということ各グループで協議し、自分たちでできることを実践を踏まえてやっているの、その辺は理解していただけたらと思う。

○田村委員（グループたんばなう）

今日初めて参加したが、石田さんのご意見はもっともなことだと思う。ただ、この夢会議でやることは少し違うのではないかと。我々はボランティアで、自分たちで何ができるか、自分たちでできることをまずやろうと。その呼びかけを県民局が行い、それに賛同して自分たちでできることを考えてやろうと。俗に言う「草の根運動」。そうはいつでも高い目標を持つと、極端に言えば世界に誇れるような自主活動をしようと考えてやっている。いろいろな職種や技術を持った方が集まっているが、自分たちの発想を元に工夫してやっている。「もっとこうしたらいい」、「こういうことがある」という意見をぜひ教えていただきたいと思う。石田さんの発言に対しては、知事や行政の方がいるのでそれを重く受け止めて考えていただけたらと思う。まず、我々の活動についてご理解、ご協力をいただきたいと思う。

4 井戸知事総括コメント

夢会議の活動の趣旨や活動は説明してもらったので、私から改めて触れないでおきたい。ただ、何が課題かを考え、課題解決にあたってどういうアプローチをとるかという時に、行政に課題解決をしろというのも大事なことであるが、自分たちでできることは自分たちでやっていくということが非常に大事だと思う。夢会議はどちらかというと後者の方のアプローチをとり、自主的な対応をしていくもののご理解いただけたらありがたい。

今回、発表等を聞いた率直な感想としては、丹波らしい活動が随分できているなというもの。たんばなうが、自立の中身の質問に対し「当事者意識と自信」という素晴らしい回答をされた。特にこれからの情報社会は、距離ではなく時空を超えるものだと思う。アメリカの情報もすぐに丹波で聞けるし、パソコンの遠隔操作で犯人扱いされた事件もあったが、距離を越えてどのような活動を展開していけるかということ、たんばなうのみなさんの活動からヒントをいただけたかなと思う。

里山は深山幽谷ではない。人の手が常に加えられ、その成果である収穫が人の生活を豊かにする。さらに手を加え、収穫、人の生活、という繰り返しが、里山である。外ばかり見ないで、丹波の里山の良さを見つけていただけたらありがたいと感じた。

I ターンの人と地元の人とのギャップ。このギャップがくせ者だ。日役があることを、住ん

でみて初めて知ったと文句を言う人もいるが、田舎では当たり前のことだということを知ったことを都会の人たちに認識してもらいたいと思う。日役に出る位ならお金を払うから勘弁してほしいと言う都会出身の人もいるが、そのような態度は地域社会の一員としてはふさわしくないと思う。それが理解できないなら丹波に住むなと言ったほうがまだという位の地域の誇りではないかという感じがした。

遊楽農グループの、ビニールを張った太陽光の消毒で有機農法ができるというのは、私の家の庭の雑草にも思ったりした。いろいろな方法論があると教えてもらった。

それで、石田さんに対する答えになるが、このようなグループは小さくして活動している。一方で全体会議もやっている。それぞれのグループで必死に取り組んでいただいている。私は自主的な活動として続けてもらったらいいし、やるべきだと思う。

今、石田さんの指摘のような、丹波市、篠山市、兵庫県として取り組むべき課題は課題として、真剣に取り組んでいく。柏原病院は辞めるつもりはない。お医者さんも確保の目処が徐々に立ってきている。病院の赤字については、みなさんがよく利用していただければ黒字化して、赤字が減っていく。病院は病院として立て直し策を今一生懸命やっている。丹波県民局は、少なくとも私の中ではなくすということを考えていない。商店街や過疎化の進行は地域全体で考えていく話であるが、例えば、空き店舗対策として、配食サービスや子どもの預かり所みたいな形で活用できないか。商店街だからといって商店だけとして使う必要はない。公共的な利用もできる。発想を変えながら進めていこうと考えている。

いろいろなマイナス面はあるが、このマイナスを一举にプラスに変えるのは難しい。難しいが、マイナスの進行をできるだけ小さくしていこう、最後に止めて逆転していこう、こういう努力を積み重ねていくことが大事だと思う。

丹波の人は、丹波で生まれ、育ち、生活して、丹波で死ぬ。これが丹波人の心意気ではないかと思う。課題を見つけて、課題に対してどう対応し、解決に対して協力していくか。課題に対していろいろな考え方がある中で対応していく姿勢を常に持ち続けていけば地域は良くなるのではないかと思う。今日、非常に刺激的なお話を伺った。みなさんに考える契機を与えていただいたということで良かったと思う。

これまで丹波の森構想を進めてきた。丹波全体をひとつの森と見立てて、その森と一緒に生活を創りあげていくというのが森構想の一番基本的な理念ではないかと思う。中の充実を図っていけば、外からもUターンや、Iターンが来る。Uターン、Iターン、Jターンが多いのは丹波だ。都会に近い田舎といわれる丹波らしさが理解されつつあると思う。

他の地域の人たちが羨ましいと思わせる地域づくりをぜひこれからも進めていただけたらと思う。